



亀山市名誉市民

彫刻家
中村 晋也

Shinya Nakamura

作品紹介

ふるさとあい

Vol. 106

「戦艦大和を旗艦とする 特攻艦隊慰霊塔」

昭和43(1968)年

今年(2023年)は戦後80年。そして、徳之島の伊仙町犬田布岬に「戦艦大和を旗艦とする特攻艦隊慰霊塔」が建立されてから58年目となります。毎年4月8日に、ご遺族など多くの方々が参列して慰霊祭が執り行われています。地域の方々は、この慰霊祭を執り行うことで英霊を末長くお慰めするとともに、訪れる人々が「永久の平和平穏を希求する」縁となつてほしいと願っているそうです。

「大和」と共に出撃した「^{やはぎ}矢矧、雪風、濱風、磯風、朝霜、霞、初霜、冬月、涼月」にて戦没された方々のご冥福を祈り、未来永劫に語り継ぎ、共に平和を願う慰霊の日が今年も近づいています。



(高さ)23m
鹿児島県徳之島伊仙町犬田布岬

特別協力 公益財団法人 中村晋也美術館

<https://www.ne.jp/asahi/musee/nakamura/>



「声」で届けたい想いがある

亀山朗読奉仕会の
皆さん



昭和54年設立。視覚障がい者や高齢者向けに、「広報かめやま」をはじめ各機関紙などの文字を音に換えて提供する「音訳」の活動をしている。

「あいあい」の2階に、亀山朗読奉仕会が作業される「録音室」があります。14人のメンバーが自宅で録音したものを一つにつなげ、何度も聞いて編集・校正し、CD「声の広報かめやま」が完成します。

会の設立は昭和54年。以来45年以上、視覚障がい者の方向けに、「広報かめやま」「市議会だより」等を音訳し、リスナーに発送されています。音訳にあたっては、広報紙と同じタイミングで情報を届けるため、なるべく早く取り組むよう心掛けられているとのこと。また、音訳は、聞いている人に情報を正確に伝えることが大切なため、聞きやすく理解しやすい話し方を心掛けてみえるそうです。

「実際に、リスナーから『こういうふうには読んでもらえませんか?』と提案いただくこともあり、私たちも改良点に分かりやすく助かっています」と会長の櫻井さん。「長年続けることができるのは、好きだから。また、

リスナーからは『社会とのつながりができて、生活に張りができた』との声も頂戴し、私たちの



「声」が誰かの世界を広げ、誰かの暮らしを豊かにしていると思うと、とてもうれしくなります」とメンバーの皆さんは話されます。

毎月1回、技術向上のための勉強会を開催するほか、講師を招いた研修会も年3回実施。市立図書館には自主制作の録音図書「山鳩文庫」が140冊以上並び、視覚障がい者だけでなく、寝たきりで本が持てない、ページがめくれないなど、読書が困難な人にも音訳CDをご利用いただけます。

ほかにも幅広く活動されている亀山朗読奉仕会。「このような活動を多くの人に知ってもらい、音訳を必要としている人へこれからも「声」を届けていきたい」、メンバーの活動は、これからも続きます。